

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [採択時公表]

| | | | | |
|--|---|--|------|-------|
| 機関名 | 東京大学 | | 機関番号 | 12601 |
| 1. 全体責任者 (学長) | ※ 共同申請のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学 (連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) はまだ じゅんいち 氏名・職名 濱田 純一・東京大学総長 | | | |
| 2. プログラム責任者 | (ふりがな) はせがわ としかず 氏名・職名 長谷川 壽一・東京大学理事・副学長 | | | |
| 3. プログラム コーディネーター | (ふりがな) うちの ただし 氏名・職名 内野 儀・東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻教授 | | | |
| 4. 申請類型 | S <複合領域型(多文化共生社会)> | | | |
| 5. | プログラム名称 | 多文化共生・統合人間学プログラム | | |
| | 英語名称 | Integrated Human Sciences Program for Cultural Diversity | | |
| | 副題 | | | |
| 6. 授与する博士 学位分野・名称 | 博士(学術)・(学際情報学)・(統合人間学) | | | |
| 7. 主要分科 | (① 哲学) (② 社会学) (③ 科学社会学・科学技術史) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入 | | | |
| | 地域研究、環境創成学、人間情報学、情報学フロンティア、ジェンダー、科学教育・教育工学、 文学、史学、芸術学、社会・安全システム科学、言語学、文化人類学、脳科学、基礎化学、心理 学、政治学、人文地理、文化人類学 | | | |
| 8. 主要細目 | (①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入 | | | |
| | 哲学・倫理学、中国哲学・印度哲学・仏教学、宗教学、思想史、史学一般、ヨーロッパ史・アメ リカ史、日本史、アジア史・アフリカ史、社会学、科学社会学・科学技術史、日本文学、英米・ 英語圏文学、ヨーロッパ文学、認知科学、生命・健康・医療情報学、ウェブ情報学・サービス情 報学、自然共生システム、持続可能システム、環境政策・環境社会システム、社会システム工 学・安全システム、生命倫理学 | | | |
| 9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場 合は下線を引いてくださ い。) | 大学院総合文化研究科超域文化科学専攻・言語情報科学専攻・地域文化研究専攻、国際社 会科学専攻・広域科学専攻、大学院学際情報学府学際情報学専攻 | | | |
| 10. 連合大学院又は共同教育課程による申請(構想による申請も含む)の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入 | | | | |
| 連合大学院 | | 共同教育課程 | | |
| 11. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名) | | | | |
| | | | | |

(機関名: 東京大学 申請類型: 複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称: 多文化共生・統合人間学プログラム)

15. プログラム担当者一覧

| 氏名 | フリガナ | 年齢 | 所属(研究科・専攻等)・職名 | 現在の専門学位 | 役割分担 (平成26年度における役割) |
|-------------------------|---------------|----|--|--|--|
| (プログラム責任者) 長谷川 壽一 | ハセガワ トシカス | | 理事・副学長 | 動物行動学・比較認知科学・進化人類学 文学博士 | プログラム全体の責任者、テーマユニット「生命・環境」の責任者 |
| (プログラムコーディネーター) 内野 儀 | ウチノ タダシ | | 大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻・教授 | パフォーマンス研究・表象文化論 博士(学術) | プログラム全体の運営。テーマユニット「価値・感性」の責任者。地域ユニット群「アメリカ・太平洋における共生」の研究・教育 |
| 家 泰弘 | イェ ヤスヒロ | | 大学院理学系研究科・物理学専攻・教授 | 物性物理学 理学博士 | テーマユニット「価値・感性」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| エリス 俊子 | エリス トシコ | | 大学院総合文化研究科・言語情報科学専攻・教授 | 比較文学・日本近代文学 Ph.D. | テーマユニット「価値・感性」における研究・教育、及び地域ユニット「日本における共生」の責任者、およびプログラムの運営 |
| 武田 将明 | タケタ マサアキ | | 大学院総合文化研究科・言語情報科学専攻・准教授 | イギリス文学・文芸批評 Ph.D. (English) | テーマユニット「価値・感性」、地域ユニット「日本における共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 中島 隆博 | ナカジマ タカヒロ | | 東洋文化研究所・准教授 | 共生の哲学・中国哲学 博士(学術) | テーマユニット「価値・感性」における研究・教育、及び地域ユニット「東アジアにおける共生」の責任者、およびプログラムの運営 |
| 齋藤 希史 | サイトウ マレシ | | 大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻・教授 | 中国古典文学・東アジア人文学 文学修士 | テーマユニット「価値・感性」、地域ユニット「東アジアにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 小林 康夫 | コバヤシ ヤスオ | | 大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻・教授 | 現代哲学・表象文化論 第三課程博士 | テーマユニット「価値・感性」、地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 三浦 篤 | ミウラ アツシ | | 大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻・教授 | 西洋美術史・共生のイメージ学 博士 | テーマユニット「価値・感性」、地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 長木 誠司 | チョウキ セイジ | | 大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻・教授 | 音楽美学・現代音楽 博士(音楽学) | テーマユニット「価値・感性」、地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 大石 和欣 | オオイシ カズヨシ | | 大学院総合文化研究科・言語情報科学専攻・准教授 | イギリス文学・社会史・哲学 博士(D.Phil) | テーマユニット「価値・感性」、地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 高田 康成 | タカタ ヤスナリ | | 大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻・教授 | 表象古典文化論・英文学 文学修士 | テーマユニット「価値・感性」、地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 村松 真理子 | ムラマツ マリコ | | 大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻・准教授 | イタリア文化 Ph.D 文学博士 | テーマユニット「価値・感性」、地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 梶谷 真司 | カジタニ シンジ | | 大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻・准教授 | 哲学・比較文化 博士(人間・環境学) | テーマユニット「格差・人権」の責任者、並びに地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 川本 隆史 | カワモト タカシ | | 大学院教育学研究科・総合教育科学専攻・教授 | 社会倫理学 博士(文学) | テーマユニット「格差・人権」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| 星加 良司 | ホシカ リョウジ | | 大学院教育学研究科・附属バリアフリー教育開発研究センター・講師 | ディスアビリティの社会学 博士(社会学) | テーマユニット「格差・人権」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| 佐藤 安信 | サトウ ヤスノブ | | 大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻・教授 | 平和構築論・人間の安全保障研究、開発法学 法学博士、Ph.D in Law | テーマユニット「格差・人権」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| 清水 晶子 | シミズ アキコ | | 大学院学際情報学府・学際情報学専攻・准教授 | フェミニズム・クイア理論 博士(学術) | テーマユニット「格差・人権」、地域ユニット「日本における共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| Jason G. KARLIN | ジェイソン G. カーリン | | 大学院学際情報学府・学際情報学専攻・准教授 | ジェンダー論・メディア 博士(学術) | テーマユニット「格差・人権」、地域ユニット「日本における共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 石井 剛 | イシイ ツヨシ | | 大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻・准教授 | 中国近代思想史・哲学 博士(文学) | テーマユニット「格差・人権」、地域ユニット「東アジアにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 瀬地山 角 | セチヤマ カク | | 大学院総合文化研究科・国際社会科学専攻・教授 | ジェンダー論・東アジア研究・社会学 博士(学術) | テーマユニット「格差・人権」、地域ユニット「東アジアにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 恒吉 僚子 | ツネヨシ リョウコ | | 大学院教育学研究科・総合教育科学専攻・教授 | 社会学・比較教育学 Ph.D. | テーマユニット「格差・人権」、地域ユニット「アメリカ・太平洋における共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 石田 勇治 | イシタ ユウジ | | 大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻・教授 | ドイツ近現代史・ジェノサイド研究 Ph.D. | テーマユニット「格差・人権」における研究・教育、および地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」の責任者、並びにプログラムの運営 |
| 辻上 奈美江 | ツジガミ ナミエ | | 大学院総合文化研究科・スルタン・カブース・グローバル中東研究寄附講座・特任准教授 | 中東諸国の比較ジェンダー論 博士(学術) | テーマユニット「格差・人権」、地域ユニット「中東・アフリカにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 園田 茂人 | ソノダ シゲト | | 大学院学際情報学府・学際情報学専攻・教授 | 比較社会学、現代中国研究、アジア・グローバル・リサーチ・セッション 社会学修士 | テーマユニット「移動・境界」の責任者、並びに地域ユニット「東アジアにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |

(機関名: 東京大学 申請類型: 複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称: 多文化共生・統合人間学プログラム)

15. プログラム担当者一覧(続き)

| 氏名 | フリガナ | 年齢 | 所属(研究科・専攻等)・職名 | 現在の専門学位 | 役割分担 (平成25年度における役割) |
|-----------------------|---------------|----|---------------------------|--|--|
| 佐藤 仁 | サトウ ジン | | 東洋文化研究所・准教授 | 資源論・国際開発論 博士(学術) | テーマユニット「移動・境界」、地域ユニット「東アジアにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 丸川 知雄 | マルカワ トモオ | | 社会科学研究所・教授 | 中国経済・産業 学士 | テーマユニット「移動・境界」、地域ユニット「東アジアにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 矢口 祐人 | ヤグチ ユウジン | | 大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻・准教授 | アメリカ研究 Ph.D. | テーマユニット「移動・境界」における研究・教育、及び地域ユニット「アメリカ・太平洋における共生」の責任者、並びにプログラムの運営 |
| 木村 秀雄 | キムラ ヒデオ | | 大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻・教授 | ラテンアメリカ人類学・人間の安全保障研究 社会学修士 | テーマユニット「移動・境界」、地域ユニット「アメリカ・太平洋における共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 森井 裕一 | モリイ ユウイチ | | 大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻・准教授 | EU研究・国際政治学 学術修士 | テーマユニット「移動・境界」、地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 高橋 英海 | タカハシ ヒデミ | | 総合文化研究科・地域文化研究専攻・准教授 | シリア語文学・アラビア語文学・西洋古典学 Dr. phil. | テーマユニット「移動・境界」における研究・教育、及び地域ユニット「中東・アフリカにおける共生」の責任者、並びにプログラムの運営 |
| 羽田 正 | ハネダ マサシ | | 東洋文化研究所・教授 | 世界史 Ph.D. | テーマユニット「移動・境界」、地域ユニット「中東・アフリカにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 林 香里 | ハヤシ カオリ | | 大学院学際情報学府・学際情報学専攻・教授 | マスメディア／ジャーナリズム研究 博士(社会情報学) | テーマユニット「情報・メディア」の責任者、並びに地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 丹羽 美之 | ニワ ヨシユキ | | 大学院学際情報学府・学際情報学専攻・准教授 | メディア研究・ジャーナリズム研究 修士(人間科学) | テーマユニット「情報・メディア」、地域ユニット「日本における共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| Martin Edward FACKLER | マルチン E. ファクラー | | ニューヨークタイムズ・東京支局長 | mass communications, journalism MA history, MS journalism | テーマユニット「情報・メディア」、地域ユニット「日本における共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 吉見 俊哉 | ヨシミ シュンヤ | | 大学院情報学環・学際情報学専攻・教授、副学長 | 社会学、カルチュラル・スタディーズ 社会学修士 | テーマユニット「情報・メディア」、地域ユニット「日本における共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 田中 明彦 | タナカ アキヒコ | | 東洋文化研究所・委嘱教授、JICA理事長 | 国際政治学 Ph.D.(政治学) | テーマユニット「情報・メディア」、地域ユニット「東アジアにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 田中 純 | タナカ ジュン | | 大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻・教授 | 表象文化論・思想史 博士(学術) | テーマユニット「情報・メディア」、地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 石浦 章一 | イシウラ ショウイチ | | 大学院総合文化研究科・広域科学専攻・教授 | 分子認知科学 理学博士 | テーマユニット「科学技術・社会」の責任者、およびプログラムの運営 |
| 磯崎 行雄 | イソザキ ユキオ | | 大学院総合文化研究科・広域科学専攻・教授 | 地球科学 理学博士 | テーマユニット「科学技術・社会」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| 廣野 喜幸 | ヒロノ ヨシユキ | | 大学院総合文化研究科・広域科学専攻・准教授 | 科学論・科学コミュニケーション論、環境/生命倫理学 理学博士 | テーマユニット「科学技術・社会」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| 藤垣 裕子 | フジガキ ユウコ | | 大学院総合文化研究科・広域科学専攻・教授 | 科学技術社会論 博士(学術) | テーマユニット「科学技術・社会」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| 松尾 基之 | マツオ モトユキ | | 大学院総合文化研究科・広域科学専攻・教授 | 環境分析化学・地球化学 理学博士 | テーマユニット「科学技術・社会」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| 石原 孝二 | イシハラ コウジ | | 大学院総合文化研究科・広域科学専攻・准教授 | 科学技術哲学、現象学、当事者研究(障害の哲学) 博士(文学) | テーマユニット「科学技術・社会」、地域ユニット「日本における共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 村松 伸 | ムラマツ シン | | 大学院工学系研究科・建築学専攻・教授 | 建築史、都市環境リテラシー学 工学博士 | テーマユニット「科学技術・社会」、地域ユニット「東アジアにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 木村 忠正 | キムラ タダマサ | | 大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻・教授 | 科学技術人類学・社会情報学 Ph.D.(文化人類学) | テーマユニット「科学技術・社会」、地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 難波 成任 | ナンバ シゲトウ | | 大学院農学生命科学研究科・生産環境生物学専攻・教授 | 植物病理学 博士(農学) | テーマユニット「生命・環境」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| 太田 邦史 | オオタ クニヒロ | | 大学院総合文化研究科・広域科学専攻・教授 | 分子生物学・構成生物学 理学博士 | テーマユニット「生命・環境」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| 岡ノ谷 一夫 | オカノヤ カスオ | | 大学院総合文化研究科・広域科学専攻・教授 | 神経生態学・言語起源論 博士 Ph.D. | テーマユニット「生命・環境」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| 酒井 邦嘉 | サカイ クニヨシ | | 大学院総合文化研究科・広域科学専攻・教授 | 言語脳科学 博士(理学) | テーマユニット「生命・環境」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| 深代 千之 | フカシロ センシ | | 大学院総合文化研究科・広域科学専攻・教授 | スポーツ科学 博士(教育学) | テーマユニット「生命・環境」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| 増田 茂 | マサダ シゲル | | 大学院総合文化研究科・広域科学専攻・教授 | 表面科学 理学博士 | テーマユニット「生命・環境」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| 池内 昌彦 | イケウチ マサヒコ | | 大学院総合文化研究科・広域科学専攻・教授 | 植物生理学 理学博士 | テーマユニット「生命・環境」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| 金子 邦彦 | カネコ クニヒコ | | 大学院総合文化研究科・広域科学専攻・教授 | 複雑系物理・理論生物学 博士(理学) | テーマユニット「生命・環境」における研究・教育およびプログラムの運営 |
| 井上 真 | イノウエ マコト | | 大学院農学生命科学研究科・農学国際専攻・教授 | 環境社会学・資源ガバナンス論 農学博士 | テーマユニット「生命・環境」、地域ユニット「東アジアにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |

15. プログラム担当者一覧(続き)

| 氏名 | フリガナ | 年齢 | 所属(研究科・専攻等)・職名 | 現在の専門学位 | 役割分担 (平成25年度における役割) |
|------------------------|-------------------|----|--|---|---|
| 原 和之 | ハラ カズユキ | | 大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻・准教授 | 西洋思想史・精神分析 Ph.D.(哲学史) | テーマユニット「生命・環境」、地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| 森山 工 | モリヤマ タミ | | 大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻・教授 | 文化人類学 博士(学術) | テーマユニット「生命・環境」、地域ユニット「中東・アフリカにおける共生」の研究・教育およびプログラムの運営 |
| C.J. Wee Wan-ling | C.J. ウェー ワンリン | | 南洋工科大学(シンガポール)・人文社会学研究科・英文学専攻・准教授 | East / Southeast Asian Studies, Contemporary Literature and the Arts, Cultural criticism Ph.D. | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「東アジアにおける共生」での研究教育 |
| Michael H.H. Hsiao | マイケル H.H.シャオ | | 中央研究院(台湾)・社会学研究所・特聘研究員、所長 | Sociology (Social Movement, Social Change) Ph.D. | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「東アジアにおける共生」での研究教育 |
| In-Jin Yoon | イン ジン ユン | | 高麗大学校(韓国)・社会学科・教授 | Sociology (International migration, multiculturalism) Ph.D. | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「東アジアにおける共生」での研究教育 |
| Lee Hyunsun | イ ヒョンソン | | 東洋文化研究所・准教授 | 社会学 Ph.D. | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「東アジアにおける共生」での研究教育 |
| 張 政遠 | チョウ セイエン | | 香港中文大学(香港)・文学部哲学研究室・講師 | 哲学 博士 | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「東アジアにおける共生」での研究教育 |
| 張 旭東 | チョウ キョウトウ | | ニューヨーク大学(アメリカ)・総合文化研究科・教授 | East Asian Studies Ph.D. | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「東アジアにおける共生」での研究教育 |
| 白 永瑞 | ペク ヨンソ | | 延世大学(韓国)・史学科・教授 | 中国近代学術史・東アジア論 博士 | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「東アジアにおける共生」での研究教育 |
| Richard Schechner | リチャード シェヒナー | | ニューヨーク大学(アメリカ)・総合文化研究科・パフォーマンス研究専攻・教授 | Performance Studies Ph.D. | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「アメリカ・太平洋における共生」での研究教育 |
| 石田 正人 | イシダ マサト | | ハワイ大学マノア校(アメリカ)・哲学部・准教授 | 比較思想・科学哲学 Ph.D. | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「アメリカ・太平洋における共生」での研究教育 |
| Thomas P. Kasulis | トーマス P. カスリス | | オハイオ州立大学(アメリカ)・教養学部・比較文化学科・教授 | Comparative Philosophy and Religion (area focus: Japanese and Western thought) B.A, M.A. (2) Ph.D. | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「アメリカ・太平洋における共生」での研究教育 |
| Prasenjit Duara | プランスジエット デュアラ | | シンガポール国立大学(シンガポール)・アジア研究所・教授、所長、人文社会研究科長 | Chinese history, Asian history, Social and historical theory Ph.D. | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「アメリカ・太平洋における共生」での研究教育 |
| Marc A. Matten | マーク A. マッテン | | フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン=ニルンベルク(ドイツ)・中国学科・教授 | Modern Chinese History Ph.D. | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」での研究教育 |
| Alain-Marc Rieu | アラン=マルク リュー | | ジャン・ムーラン・リヨン第3大学(フランス)・哲学科・教授 | Contemporary philosophy, Science and technology studies Ph.D. | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」での研究教育 |
| Thomas Fröhlich | トーマス フレーリッヒ | | フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン=ニルンベルク(ドイツ)・中国学科・教授 | Chinese political thought, The history of ideas and modern China and Taiwan Ph.D. | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」での研究教育 |
| Manfred Hettling | マンフレッド ヘットリング | | マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク(ドイツ)・歴史学科・教授 | History of civic society, social and cultural history of war commemorations Ph.D. | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」での研究教育 |
| Ludovico V. Ciferri C. | ルドヴィコ V. チッフェリ C. | | Mario Boella 研究所(イタリア)・リサーチマネージャー | Mechanism of funding innovation, Clustering activity, International activities development, Metrics for assessments complex social phenomena M.Lit., ETP | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」での研究教育 |
| Bertrand Guillaume | ベルトラン ギャルム | | パリ第8大学(フランス)・社会政治哲学科・教授 | Political theory, ethics, applied ethics Ph.D. | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」での研究教育 |
| Axel Schneider | アクセル シュナイダー | | ゲッティンゲン大学(ドイツ)・近代東アジア研究センター・教授、センター長 | History, History of Ideas and esp. History of Chinese Scholarship Ph.D. | 国際メンターズチームのメンバーとして教育、また地域ユニット「ヨーロッパにおける共生」での研究教育 |
| 永尾 英二郎 | ナガオ エイジロウ | | 住友商事株式会社・コモディティビジネス部・チーム長 | リスク管理 学士 | 国際メンターズチームにおける教育、社会連携の促進 |
| 檜原 英夫 | ナラハラ ヒデオ | | 住友化学株式会社・工業化技術研究所・上席研究員 | 化学工学 修士(工学) | 国際メンターズチームにおける教育、社会連携の促進 |
| 大沢 幸弘 | オオサワ ユキヒロ | | 米国Rovi Corporation・SVP Japan/India | IT及び企業経営 学士 | 国際メンターズチームにおける教育、社会連携の促進 |

(機関名: 東京大学 申請類型: 複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称: 多文化共生・統合人間学プログラム)

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】

《**教育内容**》本学位プログラムは、**多文化共生社会という人類に課せられた重要なテーマ**に取り組む**次世代トップリーダー**を養成する。多文化共生の理念へのチャレンジを先導する人材に必要な学知は、学際的・複合領域的な**教養的学知**である。その教養とは、専門性を備えたうえでのさらに広い視座を持ち、新たな価値の創造を可能とする新しい教養であり、「**統合人間学**」と特徴づけられる。本学位プログラムは多文化共生社会の実現には「教養」が必要であると広く社会に提言する。

《**本プログラムで養成しようとする「リーダー像**》》以下の4つの力を有したリーダー育成が目標となる。

(1) **「洞察力」**：多文化共生社会の課題を**微小な変化を見逃さずに検知**し、その**重要度を判断**する力、
 (2) **「統合力」**：コンフリクトの解消と共生理念の実現のために**臨機応変に対応**し、利用可能な**知識を総合する力**、(3) **「創造力」**：新たな価値を創出して次世代の社会的枠組みをアウトプットし、社会に「革新」をもたらす社会的構想力と、それを実現する**実行力**。(4) **「協働力」**：**卓越した国際的感覚と豊かなコミュニケーション能力**をもち、専門や立場を超えて**知の分散的協働**を可能とする力。

《**教育体制**》大学院**総合文化研究科**と**学際情報学府**を中心として、**東京大学の複数部局**(東洋文化研究所、生産技術研究所、教育学研究科、農学生命科学研究科、理学系研究科等)が関与する、東京大学全学に開かれた文理融合型の5年一貫の博士課程教育プログラムである。グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター」等における大学院教育の実績を生かしつつ、国際的学際的大学院教育プログラムおよび学部生向け教育プログラムと連携し、学部-大学院を一貫した教育プログラムを提供する。また、社会人向けのエグゼクティブ・マネジメント・プログラム(東大EMP)と連携し、産業界・官界と学問界の流動的融合を実現させ、教育プログラムに反映させる。ニューヨーク大学、オクスフォード大学、フランス国立高等師範学校、北京大学、ソウル国立大学など、海外の優れた研究教育機関との単位相互認定制度を確立し、国際的環境で学生を教育する。また、本学位プログラムは外部評価として海外、産業界、官界、メディア、市民グループに諮問を行い、結果はプログラム運営に反映される。

【特色】

《**養成体制の特徴**》学部学生のための教育プログラムと協力し、**大学学部入学時から博士号**取得、さらにその後のキャリア形成まで、トータルな人材育成を目指す。英語、他の西欧語1ヶ国語、アジア地域言語1ヶ国語と、少なくとも合わせて**3つの外国語**に習熟した、豊かなコミュニケーション能力をもつグローバル人材を育成する。**社会人リカレント教育**を実施し、すでに企業等でリーダーとして活躍している人材も本プログラムにおいて共生学を修め、博士号を取得、社会に共生学の知を還元できる。プログラムの運営を円滑に遂行し、学生、プログラム担当者、国内海外連携機関をマネジメントする事務局機能を強化し、教育研究アドミニストレーターを配置する。**国際メンターズチーム**が学生をサポートし、学生各自が作成するプログラム・カルテを利用して学生各々にフィットしたオーダーメイドの教育が為される。

《**切磋琢磨させる環境の取り組みの特徴**》大学院1年目の早い時期から一貫して**国際的な環境**に身を置く研究現場教育を実施する。学生は在学期間中の**留学プログラム**を通じて国外の同世代の研究者と意見交換をすることで、高いレベルで研究へのモチベーションを保ち続けることができる。年度ごとに学生の研究成果を査定し、査定に応じた**研究奨励費**を支給する。

《**修了者に関するキャリアパスの想定、キャリア支援体制の特徴**》**国際メンターズチーム**は、学生一人一人に手厚い研究指導とキャリアパス形成のためのサポートを提供する。**インターンシップ制度**を設け、希望する学生に国連など国際機関、NGOやNPO、企業、シンクタンク、官公庁、地方自治体、ジャーナリズム等における研修の機会を提供する。

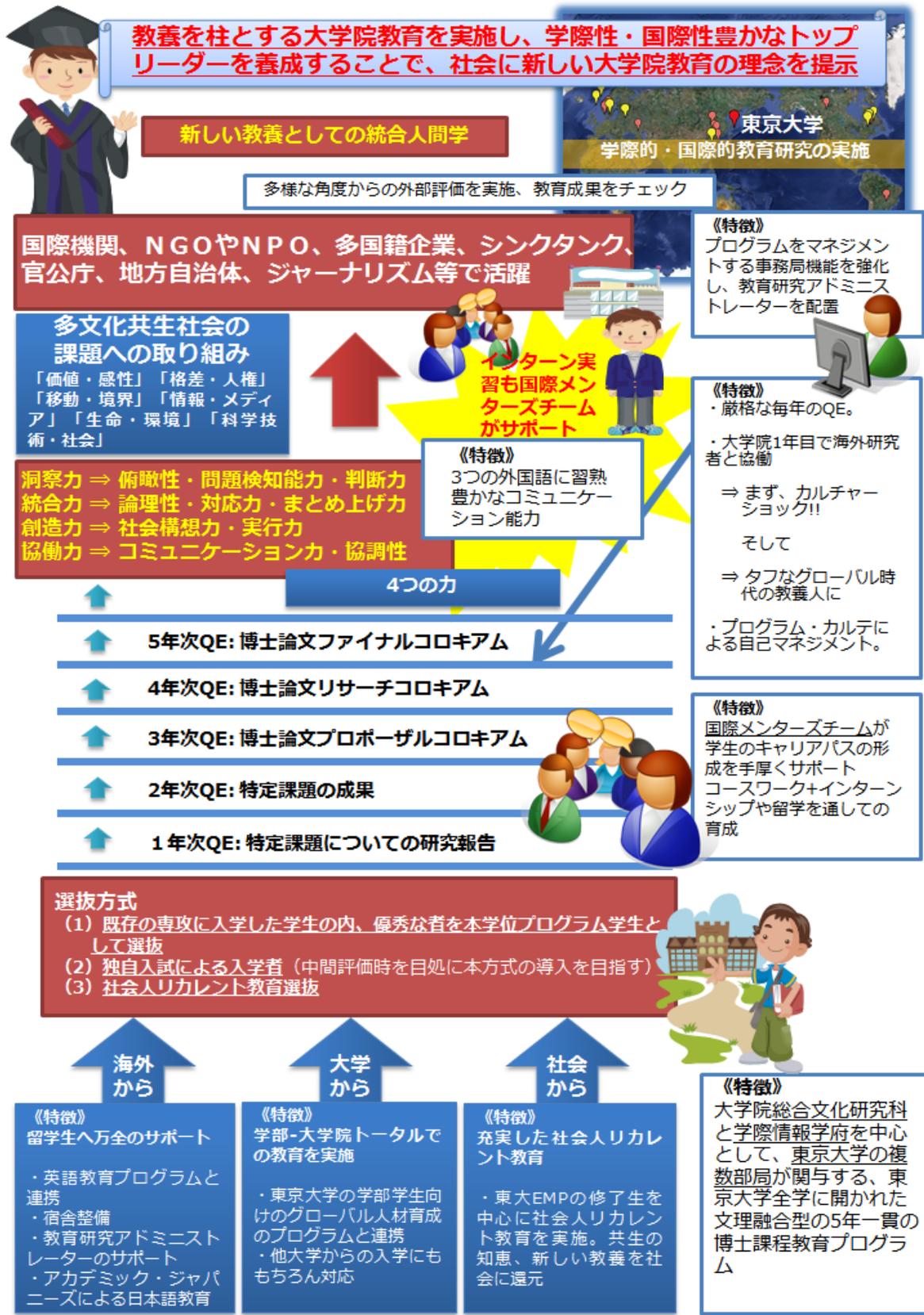
《**質保証システム**》プログラム学生への選抜、毎年QEの実施、目標達成状況を学生自身が記録するプログラム・カルテの運用、論文審査により、学位プログラムの質が保障される。

【優位性】

学際性、国際性を追求し、官の世界や産業の世界で実践的に多文化共生社会を実現する方途を模索する人材を養成することは、社会的な意義を持つ。さらにアウトカムとして**人文科学・社会科学・自然科学の新たな大学院教育の理念である統合人間学を社会に提示**する。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連



携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。

| | |
|---|------------------|
| 機 関 名 | 東京大学 |
| プログラム名称 | 多文化共生・統合人間学プログラム |
| <p data-bbox="185 315 336 344">[採択理由]</p> <p data-bbox="185 367 1431 562">「統合人間学」という新たな大学院教育の理念を提唱し、多文化共生社会を先導する次世代のトップリーダーを養成するための世界的な大学院教育の拠点づくりに取り組む挑戦的なプログラムである。国民国家を支える国民ではなく、「地球市民」を育成し、多文化共生社会の課題を解決し、世界を牽引するリーダーを輩出するべく、改革的な教育構想を立案している本プログラムの現代的意義は大きい。</p> <p data-bbox="185 573 1431 1055">本プログラムは、トップリーダーに必要な学知として、人文学、社会科学、自然科学の複合領域的な教養的学知―「統合人間学」―を提示し、二十一世紀の大学院教育の知の基盤を形成するために体系的な教育プログラムを綿密に計画している。グローバルに活躍できる人材育成に重点を置き、国際的環境の中で学生の主体的で独創的な研究を実践するための指導体制を取り入れている点は特に高い評価に値する。通常5名から構成される国際メンターズチームによるオーダーメイドの教育は、学生の個性を尊重しつつ、能力を開発し、キャリアパスまでトータルで人材を育成することを目指したものであり、成果が期待される。また、世界に通用する質の保証された学位プログラムとして、3つの外国語（英語、他の西欧語 1ヶ国語、アジア地域言語 1ヶ国語）の学修、毎年度設定される Qualifying Examination、在外研究（留学）プログラム、国際性・実践性を備えた現場でのインターンシップ制度が整っている。社会人・留学生の人材育成をも視野に入れている点も評価できる。</p> <p data-bbox="185 1066 1431 1178">既存学内リソースを最大限活用しながら、そこにグローバル時代にふさわしい学位プログラムを導入する構想は実現性が高く、トップリーダーを養成するプログラムとして説得力がある。</p> | |